

■打倒中京大。北海学園大が最後の調整

11月9日に開幕する全日本大学アメリカンフットボール選手権の初戦で、東海地区代表の中京大と対戦する北海学園大が4日まで、ホームグラウンドの北海学園清田グラウンドで最後の調整を行った。3年ぶり3回目の全日本挑戦。相手は東海学生リーグで優勝22回の強豪だが、「勝つ気持ちで行く」と北海道王者のプライドをみなぎらせた。チームは7日、試合会場の長良川球技メドウのある岐阜市入りした。



10月27日に終了した第50回北海道学生選手権を5戦全勝で制し、3年ぶり9回目の優勝を果たした北海学園大ゴールデンベアーズ。次の目標は、2009年の大会創設以来、北海道代表がまだ白星を挙げていない全日本大学選手権での初戦突破だ。大学選手権1回戦まで2週間弱。チームは11月2日からの3連休を使い、念入りに攻守のプレーを再確認した。中京大のビデオテープも詳細に分析し、打倒中京大の戦術を練り上げた。

高木幸樹ヘッドコーチは「全部出す。全プレーを出す」と短い言葉に決意を込める。リーグ戦では、お家芸のパスで1014ヤード、ランも968ヤード

を獲得した。総獲得距離1982ヤードは、2位の釧路公立大を600ヤード上回り、抜群の攻撃力を見せた。その勢いを晴れ舞台でも再現できるか。高木HCの描くゲームプランは、体格の不利も予想される中で、持ち前の多彩なプレーで試合の主導権を握ることだ。

選手たちも気合十分だ。道リーグMVPで攻守のラインを兼務する成田陽斗主将（4年）は「中京大のラインは大きくて重い。ライン勝負になる」と前置きして「自分たちがリーグ戦でやってきたことが、どれだけ通用するか楽しみ」と決戦を心待ちする。攻撃の司令塔のQB成田滉佑（3年）も「自分たちはパスのチーム。パスを決めると乗ってくる」と自信を見せ、ホットラインのWR八乙女凌太郎（3年）も「印象に残るプレーをしたい」とやる気満々だ。2年連続リーディングラッシャーのRB高杉武生（4年）は「OLとコミュニケーションを取ってランを出す」とクレバーな走りを宣言した。

守備チームも負けていない。北海学園大の3年ぶり優勝には、5試合で総失点26点、1試合平均失点が5.2点という鉄壁の守りも欠かせなかった。1点差で競り勝った釧路公立大戦、ゴール前の驚異的な粘りで単独優勝を決めた北海道大戦が、その象徴だ。守備リーダーのLB池原響生（4年）は「北海道にはいないタイプの大きなRBに、どれだけ集まってタックルできるか」と勝負どころをにらんだ。（広報委員 塚田博）

【写真】全日本大学選手権に向けて清田グラウンドで最後の調整を行った北海学園大の選手たち